

# 福島県病院協会ニュース

発行所：一般社団法人 福島県病院協会／発行人：井上 仁／発行日：令和2年5月25日(月)  
〒960-8036 福島市新町4-22 (福島県医師会館3階) / TEL 024-521-1752 / FAX 024-521-2986

第43号

## 地域住民に信頼され、愛される病院をめざして

公立相馬総合病院 院長 佐藤 雅彦



令和二年四月九日、これが原稿を書いている現在の日付です。中国武漢より発生した新型コロナウイルス感染症が世界に蔓延し猛威を振り、イタリヤ、スペイン、そしてアメリカにおいてウイルス感染症による死者が急増しています。日本においても東京で感染者が一八〇人越えという報道が流れています。非常事態宣言が安倍首相より発せられ、日本全国に自粛ムードが浸透し、ウイルス感染症への恐怖と経済活動の停滞に伴う先行きの不安が渦巻いています。刻々と状況は変化し明日が見通せない状況です。この院長の抱負をまとめた原稿も印刷前のぎりぎりのタイミングで現状に合わせて書き加えています。記事が印刷され、皆さんが読んでくださっているときにも状況は変化し、私共の病院の在り様は大きく変わっているかもしれませ

私は、平成三十一年四月より金田寛之前院長の後任として公立相馬総合病院の院長に就任致しました。昭和六十二年に福島県立医科大学を卒業、旧第一内科学講座（現循環器内科 竹石恭知教授）に入局、いわき市立常磐病院、福島県立医科大学病院、福島労災病院勤務を経て、平成十四年に当院の循環器内科医として赴任致しました。院長に就任し、急速に進む過疎地域を支える医療のあり方を地域医療の担い手としての立場から、経営状況の改善を目標に、自分でできる施策を模索して参りました。しかしながら、昨年十月には台風十九号、その二週間後の集中豪雨により二度に亘る大規模水害が発生しました。自分の家も浸水する中、病院施設の断水が二週間に及ぶと診断された時には、透析治療を維持する方法を相馬市長、職員とともに頭を悩ませました。職員のがんばりと自衛隊等の援助、市長の政治力が合わさり何とか収束を迎えホッと矢先に、今度は新型コロナウイルス感染症の対応を模索しています。

紀にわたり「地域住民が安心して生活できる医療の砦」を旗印に、地域の中核病院として仕事して参りました。現在の稼働病床数は一六四床（休床を含めますと一九八床）、うち地域包括病床は八床稼働しております。当院の構成は循環器内科、消化器内科、外科、泌尿器科、小児科、整形外科の常勤医が十七名で入院治療体制を組んで治療に当たっております。小児科、泌尿器科は相馬地区の集約施設です。また、福島県立医科大学、東北大学、仙台厚生病院、東北医科大学等の協力により、糖尿病科、呼吸器科、腎臓内科、リウマチ科、心臓血管外科、皮膚科、耳鼻科、眼科、形成外科、産婦人科等を標榜しております。初期研修病院として現在四人の研修医が活動中です。新型コロナウイルス感染者は福島県で現在三十三名、隣の南相馬市で七名の発症が確認されました。われわれの町にも感染が迫ってきている緊迫感があります。自治体病院として対応方法を情報収集し検討しています。四月八日より相馬市・新地町医師会および相馬市とともに発熱外来を始めました。院内感染を起さぬよう、病院内で感染症を食い止めようとする試み

です。成功するかどうかはわかりませんが今考えられる、最良の方法を選択しなければならぬと思っています。現在五十二床ある福島県の感染病床は、いずれ満床となるでしょう。その時、われわれ自治体病院は患者を受け入れ、地域の中核病院としての使命を果たさねばなりません。現在、接触外来、発熱外来など危険があるにも関わらず、医師、看護師、事務員、技師達は本当によく働いてくれています。頭の下がる思いです。東日本大震災同様、この結束力さえあれば困難も乗り越えられると信じています。相馬地域のの中核病院として、相馬郡医師会相馬支部、他病院、そして相馬市・新地町と連携して確固たるコロナウイルス感染対策を施し、当地方の医療を守りたいと思います。またコロナウイルス感染が収束した世界において、再起をかけた地域活動を支える医療機関として貢献して参りたいと考えています。高齢化社会に向けて、地域包括病床を中心とした地域包括構想への寄与、地域密着の透析療法の実施、健康維持に不可欠な検診の充実を計り、一方で心臓リハビリテーションの導入など健康長寿に必要な施策をしていきたいと考えております。われわれは使命を胸に医療活動に従事し、地域に貢献してまいりたいと思っております。福島県病院協会会員の皆様、今後共ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



# AIで変わるかもしれない医療状況

社団医療法人養生会 かしま病院 呼吸器科 山根 喜男



小医は昨年古希を迎えました。

二〇二五年問題の元凶の団塊の世代の端くれです。あと五年しますと後期高齢者へ仲間入りします。企業年金と共済年金さらに厚生年金も一応受け取ってはいますがすべてを足しても雀の涙に及びませぬ。医療現場で常勤医として働かせてもらっていますので、むしろ年金制度を支える立場です。

少子高齢化に伴い高齢者の雇用が勧められ、年金の受給年齢も先延ばしされそうです。医師不足のおかげで老医でも貢献できる職場はありますが、知力・体力・気力の衰えを日増しに痛感する身としては、人間の命を左右する立場からは距離を置いた方が安全な気がしています。高齢ドライバーの逆走や暴走事故が契機となって運転

免許の更新時に認知症検査が導入されるようになりました。医療事故では、医師が高齢であることが原因にあげられたことはないのですが、やがては問題になるかも知れません。

人口が増加する時代には市場原理が働き、ピークを過ぎた高齢者は徐々にメインストリートから去らざるを得なかったのですが、少子化の現代では後ろから押し出す人は言うに及ばずついてくる後続がないのでいつまでも責を免れない状況になっています。

文明が発展し社会に余裕ができますと、文化科学は高度になります。医療も高度になり、なおかつ安全安心が要求されます。そのため、就業の際には教育を受けて資格を取ることが求められます。

終身雇用制の時代には、就職時には無能であっても無限の可能性を持ったマルチポテンシャルな社員を会社が教育し一人前に育てました。しかし、効率を重んじる現代では、教育は他所に任せ、有能な人材を即戦力として採用しま

す。一方有能な社員は、能力は自分で築いた価値であると考え、会社への恩は感じないので会社への帰属意識はなく条件さえよければ競合会社に転職することに躊躇いも感じません。人と人の結びつきが緩くなり、能力とか実績で人を評価するようになりました。

どんな有能な人でも処理能力には限界がありますから、資格は持たないけれども実地に有用な人材を使って仕事をしてもらう様になります。いつの間にか現場から離れた有資格者たる専門家と、現場で実力を蓄えた未資格一般人の二極化が起こります。専門家は理論と知識に走り、資格獲得のハードルがどんどん高くなります。それにつれて現場でも中等度の理論や知識が要求されるようになり、種々な段階の資格が求められるようになり、

たとえば、ITの進歩に遅れをとってしまった名医は、IT専門家に頼らざるを得ません。それでも医師頭が活躍できる時代は安泰ですが、医師頭はAIが代行して

くれるようになりつつあります。診断と治療などの医師の本身も、診断基準や治療方針の均一化が進むと、IT分野に優れた人に仕事を下ろしたほうが効率よい医療が行われるようになります。現代は、過渡期であり、医療の専門家は急激に進歩する知識に置いて行かれないようにと、講習会にせつ

と参加し、資格更新のために時間とお金を投資させられています。この負担の大きさは、東京に住んでいる場合と、地方にいる場合では雲泥の差があります。こういうことが、地方の医師不足の大きな原因になっています。しかも、子弟の教育にも同様な地域間格差がありますので、地方勤務の医師も週日単身勤務の形態が珍しくありません。

しかし、AIがより進歩しますと、医師頭はAIに取って代われ、現場はIT専門家です足りるようになりかねません。優雅な生活を送っていた平安貴族は、やがて用心棒たる武士階級に天下をとられました。武士は食わねど高楊枝、と虚勢を張っていてもやがては商人に頭が上がりなくなり、た。ゼニカネの時代になると道徳は二の次になりました。そんな中で、渋沢栄一先生は偉大でした。しかし、現代の大国のリーダーの大半は「論語と算盤」ではなく

『無論語かつ勿論算盤』の輩のようです。

AIが進歩しますと、ITをコントロールできる人々が医療をコントロールできる様になります。医師頭を鍛えても石頭の価値しかなくなるかも知れません。すでにITの巨大企業が国家を支配しています。

医療現場では、電子カルテを駆使できない医師は医療クラークに取って代わられます。視診・触診・打診・聴診なども殆んど電子機器頼りです。所見獲得後の情報処理の速さと正確さはITの独壇場です。ロボット手術もやがては自動操作に変わるでしょう。名医が手術方法を開発すればするほどに、その技術はITに持つていかれます。つまり、自己の努力が自己否定の世界への道程になります。経世済民たるべき経済が格差拡大に加担し、人命救助に献身する医療者が自らの身体を蝕み、玄冬というべき高齢者を延命するために若者が青春を消耗している現実、健全ではありません。

来るべき医療AI時代に医師がやるべきことは、知識量の拡大や診断技術の熟達ではなく、人口減少、少子高齢化の時代であることを認識し、身の丈にあった医療資源の配分に関する叡智を高めることではないでしょうか。



# 「瑞宝小綬章」授与に感謝

医療法人 明精会 会津西病院 理事長 小松 紘



このたび、平成から令和に元号が改まった記念すべき、令和元年春の叙勲におきまして「瑞宝小綬章」を授与され、五月二十四日に皇居 春秋の間において天皇陛下の拝調を賜わる光栄に浴しました。

この栄誉は私にとりましても生涯忘れ得ない思い出であり、民間病院の医師である私にとりましてはこの上ない感激の極みでございます。これはひとえに、福島県病院協会の会員の先生方をはじめ、医師会の先生方、また、長い間私を支えて下さった多くの方々のご指導とご支援の賜であると深く感謝申し上げます。

私は、生まれが柳津町であり、祖父と父が柳津町で診療所

を開業していたこともあって、柳津町との関わりが強く、昭和五十五年から国民健康保険運営協議会の委員として永年従事してきたことの功績が認められ、厚生労働大臣表彰をいただきました。そのことも今回の叙勲につながっているものと存じます。

ここで私が叙勲を賜わるまでの経歴の一端を紹介させて頂きます。私は、日本大学医学部を卒業後、日本大学附属病院に勤務した後、昭和五十二年五月にふるさと会津に戻り、総合会津中央病院に勤務いたしました。その頃、病院では小児科および小児科病棟の充実を図ることになりました。その理由として、病院に高等看護専門学校を設立することになり、小児科部門が必要となったからです。そこで大学で消化器外科・小児外科を専門にしていた私に白羽の矢が立ったのでした。いわき共立病院の小児科を見学させて頂き、自治医科大学の小児科との連携

を図り、数名のスタッフでスタートすることができました。

すでに外国では一般的になっているオープンスペースのナースステーションの実現化にこぎつきました。思い出に残るのは、当時話題となった「四つ子」の出産に小児科チームの一員として加ったり、院内の研究所にて癌治療のチームに加えて頂き、最先端といわれるハイパー

サミア（温熱療法）の研究に取り組み、国内外の学会発表も行い充実した日々を送る毎日でした。平成七年四月に会津西病院に移り、副院長として当時、慢性期対応であった一般病院の松清病院を、近隣の総合病院等との医療連携をお願いしながら、内科系の救急病院としてスタートさせるなど、病院機能の改革を実践し拡充を図ってまいりました。

域にやさしい病院作りに強い信念をもって取り組み、平成十七年四月には、明精会の一大転機となった精神科病院である羽金

病院と一般病院の会津西病院を統合し、新たな会津西病院として発足させ、精神科の敷居を低くするため、メンタルケアとして時代の変化に即応した特徴ある病院づくりに力を注いでまいりました。平成二十三年四月からは理事長となり、超高齢化社会に対応した「地域包括ケアシステム」の実現を目指し、メンタルケアを中心に医療・介護の連携を強化し、病棟の一部を改修して新たな住まいとなる有料老人ホームを整備するなど経営の安定を図りながら、当院が地域に貢献できることは何かを常に問いながら事業をすすめてまいりました。また、医師会活動

におきましては、昭和五十二年より医師会に加入させて頂き、平成四年四月には会津若松医師会の理事となり、小児母子保健の充実を図り、小児健診体制の拡充、予防接種の広域化に当時の先生方の協力を頂きながら力を注ぎました。平成二十二年四月から平成三十年五月まで副会長を務めさせて頂き医師会長をバックアップしながら医療関係

者と一緒に会津地域の医療発展のために努めさせて頂きました。さらに、福島県医師会の産業保健委員会や感染症対策委員会をはじめ、多くの委員会の委員として協力させて頂きました。また、学校医としては、平成四年から会津養護学校をはじめとし、地元北会津の保育所、幼稚園、小中学校の学校医や若松市内の小中学校の学校医を引き受け、現在でも何とか健診業務は行っております。

二〇二〇年を迎えて団塊の世代が七十五歳以上となる二〇二五年は、もう目の前にきており、医療機関を取り巻く状況は様々変化していますが、その中においても、医療法人明精会が

地域に貢献すべきことは何かと考えながら、周辺の病院やクリニック・介護施設等と連携を図り、少しずつ前進させていくことが私の使命と考えております。今後は、さらに健康に留意し、地域の医療・介護・福祉の充実に少しでもお役に立てるよう努力すると共に、この栄誉に恥じない人生を築いてまいります。

何卒、これまでも増してご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ろしくお願い申し上げます。





# 感染症対策 へのご協力をお願いします

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。

## ①手洗い

### 正しい手の洗い方

手洗いの前に

- ・爪は短く切っておきましょう
- ・時計や指輪は外しておきましょう



流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



手の甲をのばすようにこすります。



指先・爪の間を念入りにこすります。



指の間を洗います。



親指と手のひらをねじり洗います。



手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

## ②咳エチケット

### 3つの咳エチケット

電車や職場、学校など人が集まるところでやろう



何もせずに咳やくしゃみをする

咳やくしゃみを手でおさえる



マスクを着用する(口・鼻を覆う)

ティッシュ・ハンカチで口・鼻を覆う

袖で口・鼻を覆う

### 正しいマスクの着用



① 鼻と口の両方を確実に覆う



② ゴムひもを耳にかける



③ 隙間がないよう鼻まで覆う

首相官邸 Prime Minister's Office of Japan

厚生労働省 Ministry of Health, Labour and Welfare

厚労省 検索

